

令和4年度 国立信州高遠青少年自然の家 実践研究事業

信州高遠サマーキャンプ^o

中間報告書

独立行政法人 国立青少年教育振興機構

国立信州高遠青少年自然の家

1. はじめに

本事業「信州高遠サマーキャンプ」は、南アルプス、中央アルプスに囲まれた豊かな自然環境の中で、長期自然体験活動を通して自然のすばらしさや偉大さを感じるとともに、仲間と協力して様々な活動に挑戦することで「学びに向かう力・人間性等」を育むことを目的としています。

「学びに向かう力・人間性等」は非認知能力、社会情動的スキルとも呼ばれ現代的な課題を解決し、複雑で変化の激しい社会を生き抜くための力として社会的にも注目が高まっています。

キャンプでは、ジオパーク学習を通じて地域を知ることや、カヌー体験、テント設営、野外炊事、南アルプスの3000m級の山への登山チャレンジを通して、子供たちのたくましく成長する姿を見ることができました。

このキャンプでの経験が参加者の皆さんにとって、少しでもこれからの社会を生き抜く力になってくれたら幸いです。

2. 趣旨

7泊8日のキャンプを通して、自然のすばらしさや偉大さを感じるとともに、仲間と協力して様々な活動に挑戦することで生きる力を育む機会とする。

3. 主催

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

4. 研究概要

(1) 実践研究事業のテーマ

「学びに向かう力、人間性等を育成する体験活動」

(2) 体験を通じて育成したい力

- ・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力
- ・自己の感情や行動を統制する能力
- ・自らの思考のプロセス等を客観的に捉える力
- ・多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力
- ・持続可能な社会づくりに向けた態度
- ・リーダーシップやチームワーク
- ・感性、優しさや思いやりなど、人間性等に関するもの

先行研究による分類等を参考にし、ここでは学びに向かう力、人間性等を以下の5つとした。



(3) 調査方法について

4.(2)の5つの項目に対応する質問内容を、事前・事後・追跡と3回のアンケート調査を行い、変容を分析した。また、保護者に対しても同様のアンケートを行い、保護者（他者）目線からの子供の変容（他己評価）も合わせて分析した。

合わせて、参加者には毎日振り返りシートを記入してもらい、そこから活動に対する意識の変容を調査した

(4) 企画委員（順不同）

- 傘木 靖 氏（長野県山岳総合センター 所長）
- 瀧 直也 氏（国立大学法人信州大学教育学部 准教授）
- 笹川 隆広 氏（南信州山岳ガイド）

5. 事業概要

(1) 日程

スタッフトレーニング：令和4年7月2日（土）～3日（日） 1泊2日

	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
7月2日	土							送迎 茅野駅	屋食 (持参)	オリエンテー ション	テント設営	野外炊事		入浴	講義 「安全に登山をす るために」		焚き火		
7月3日	日		起床	テント 撤収	朝食	準備	移動	守屋山登山		移動	屋食	送迎 茅野駅							

本キャンプ：令和4年8月6日（土）～12日（金） 6泊7日

※新型コロナウイルス感染症の影響で山小屋泊を1日短縮した

	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
8月6日	土									受付 開会式	テント設営 ※1人1張り	仲間づく りゲーム	夕食 【食堂】	入浴	1日のまとめ グループ活動 ※班の目標設定 ※事業フラッグ	就寝 準備	就寝【テント泊】		
8月7日	日		起床	朝食 【野外炊飯】	準備	移動 板山露頭見学	岩石採集 【伊那市長谷】	屋食 【弁当】	移動	カヌー体験・溝口露頭見学 【美和湖】	移動	夕食 【食堂】	入浴	1日のまとめ グループ活動	就寝 準備	就寝【テント泊】			
8月8日	月		起床	朝食 【食堂】	準備	移動	登山トレーニング 【守屋山登山】 屋食【弁当】		移動	休憩 洗濯タイム	夕食 【野外炊飯】	入浴	1日のまとめ グループ活動	就寝 準備	就寝【テント泊】				
8月9日	火		起床	朝食 【食堂】	準備	自由時間	講義 【安全に登山を するために】	屋食 【野外炊飯】		魚のつかみ取り・調理 【施設内】	夕食 【野外炊飯】	入浴	1日のまとめ 荷物確認	就寝 準備	就寝【テント泊】				
8月10日	水		起床	準備	移動	休憩 朝食 【弁当】	移動 【林道バス】	登山チャレンジ 1日目 【仙丈ヶ岳：山頂登山】 屋食【弁当】			夕食 【山小屋】	1日のまとめ	就寝 準備	就寝【仙丈小屋泊】					
8月11日	木	ご来光 ハイク	朝食 【山小 屋】	登山チャレンジ 2日目 【仙丈ヶ岳：下山】			移動 【林道バス】	入浴・屋食 【仙流荘】	移動	休憩	夕食 【野外炊飯】		焚き火	就寝 準備	就寝【テント泊】				
8月12日	金		起床	テント 撤収	朝食 【食堂】	荷物 整理	全体 片付け	キャンプのまとめ アンケート記入	屋食 【食堂】	閉会式	解散								

(参考) 当初の日程案 7泊8日

	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
8月5日	金									受付	開会式 テント設営・仲間づくり	夕食 【食堂】	入浴	1日のまとめ グループ活動	就寝準備	就寝【テント泊】			
8月6日	土	起床	朝食 【野外炊事】				守屋山登山【守屋山】 登山トレーニング 昼食【お弁当】			仲間づくりゲーム	夕食 【野外炊事】	入浴	1日のまとめ グループ活動	就寝準備	就寝【テント泊】				
8月7日	日	起床	朝食 【食堂】		移動	岩石採集【長谷】	昼食 【お弁当】	カヌー体験【美和湖】 ジオパーク：溝口露頭	移動	夕食 【食堂】	入浴	1日のまとめ グループ活動	就寝準備	就寝【テント泊】					
8月8日	月	起床	朝食 【野外炊事】		自由時間	講義 【安全に登山を するために】	昼食 【食堂】	登山食作り	魚のつかみ取り	夕食 【野外炊事】	入浴	荷物準備 1日のまとめ	就寝準備	就寝【テント泊】					
8月9日	火	起床	朝食 【食堂】	活動準備	移動	登山チャレンジ 1日目（徒歩移動：4時間程度） 【仙丈ヶ岳：林道バス停「歌宿」～こもれび山荘】 昼食【行動食】		山荘到着 休憩	夕食 【野外炊事】	1日のまとめ	就寝準備	就寝【こもれび山荘】							
8月10日	水	起床	朝食 【野外炊事】		登山チャレンジ 2日目（徒歩移動：6時間程度） 【仙丈ヶ岳：山頂登山】 昼食【行動食】		山小屋到着 休憩	夕食 【山小屋】	1日のまとめ	就寝準備	就寝【仙丈小屋】								
8月11日	木	ご来光登山 【山小屋付近】	朝食 【山小屋】	登山チャレンジ 3日目（徒歩移動：4時間程度） 【仙丈ヶ岳：下山】	入浴 仙流荘	移動	昼食	買い出し	移動	夕食 【野外炊事】	キャンプファイヤー	就寝準備	就寝【テント泊】						
8月12日	金	起床	テント 撤収	朝食	荷物 整理	片付け	キャンプのまとめ アンケート記入	昼食	閉会式	解散									

(2) 参加者

小学5年～中学2年生（計15名）

	小5	小6	中1	中2	中3	計
男	3	1	2	1	0	7
女	2	4	2	0	0	8
計	5	5	4	1	0	15

（長野県10名、愛知県4名、埼玉県1名）

法人ボランティア 8名（男4名、女4名）

6. 活動の様子

【スタッフトレーニング】

【スタッフトレーニング1日目】 テント張り、野外炊飯、講義



【スタッフトレーニング2日目】 片付け、守屋山登山



【サマーキャンプ 本番】

【1日目】 テント張り、仲間づくり、事業フラッグづくり



【2日目】 ジオツアー、カヌー体験、岩石標本作り



【3日目】 守屋山登山、アイス作り、野外炊飯



【4日目】 登山のための講義、ニジマスつかみ取り、ニジマス調理



【5日目】 仙丈ヶ岳登山、山頂



【6日目】 ご来光、仙丈ヶ岳下山、キャンプファイヤー



【7日目】 テント撤収、閉会式



6. 分析

(1) 学びに向かう力の調査について

【好奇心】【協調性】【自己主張】【自己抑制】【がんばる力】の5つの項目各々について3つの質問内容（計15）を、事前・事後・追跡と3回のアンケート調査を行い、比較分析した。

「信州高遠サマーキャンプ」アンケート	(別紙1)
名前： _____	
本事業では、子どもの体験活動に関する調査研究を行うこととしています。参加者の現在の様子についてアンケートの回答をお願いします。 また、事業中や事業後もアンケートのご協力をお願いします。 5=よく当てはまる 4 当てはまる 3=どちらともいえない 2=あまりない 1=ほとんどない	
①新しいことにワクワクして取り組むことができる (好奇心) (5 . 4 . 3 . 2 . 1)	
②反打ちと協力して取り組むことができる (協調性) (5 . 4 . 3 . 2 . 1)	
③自分が何をしたいかを言うことができる (自己主張) (5 . 4 . 3 . 2 . 1)	
④人の話が終わるまで静かに聞くことができる (自己抑制) (5 . 4 . 3 . 2 . 1)	
⑤物事をあきらめずに挑戦することができる (がんばる力) (5 . 4 . 3 . 2 . 1)	
⑥好きなことに集中して取り組むことができる (好奇心) (5 . 4 . 3 . 2 . 1)	
⑦人に自分の気持ちを伝えたり、相手の意見を聞いたりすることができる (協調性) (5 . 4 . 3 . 2 . 1)	
⑧ほしいもの、してほしいことを本人に頼むことができる (自己主張) (5 . 4 . 3 . 2 . 1)	
⑨夢中になっていることでも、時間がくれば、次のことに移ることができる (自己抑制) (5 . 4 . 3 . 2 . 1)	
⑩どんなことに対しても、自信を持って取り組むことができる (がんばる力) (5 . 4 . 3 . 2 . 1)	
⑪わからないことについて自分で調べることができる (好奇心) (5 . 4 . 3 . 2 . 1)	
⑫反打ちとけんかしても、謝るなどして仲直りができる (協調性) (5 . 4 . 3 . 2 . 1)	
⑬反打ちから嫌なことをされたら、「いや」「やめて」などと言える (自己主張) (5 . 4 . 3 . 2 . 1)	
⑭自分がやりたいと思っても、人の嫌がることはがまんできる (自己抑制) (5 . 4 . 3 . 2 . 1)	
⑮一度始めたことは最後までやり通すことができる (がんばる力) (5 . 4 . 3 . 2 . 1)	
質問項目は以上になります。ありがとうございました。	

< 学びに向かう力の調査結果 >

質問	N	事前8/6		事後8/12		追跡10月		F値	P値	η^2	多重比較
		平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD				
全体	13	63.69	7.77	66.62	5.20	66.54	7.58	0.75	0.481	0.040	
好奇心	13	13.23	1.48	14.08	1.12	13.92	1.19	1.63	0.209	0.083	
協調性	13	13.00	1.78	13.31	1.18	13.77	1.42	0.89	0.421	0.047	
自己主張	13	12.69	2.46	13.08	2.47	13.15	1.99	0.15	0.863	0.008	
自己抑制	13	11.69	2.02	12.38	1.94	12.62	1.98	0.77	0.472	0.041	
がんばる力	13	13.08	1.85	13.77	1.36	13.08	2.36	0.57	0.568	0.031	
1	13	4.23	0.73	4.85	0.38	4.69	0.48	4.46 *	0.019	0.198	pre<post1*,pre<post2†
2	13	4.31	0.95	4.46	0.52	4.69	0.48	1.05	0.362	0.055	
3	13	4.08	1.04	4.54	0.66	4.38	0.65	1.11	0.340	0.058	
4	13	4.15	0.69	4.00	0.71	4.15	0.80	0.19	0.827	0.010	
5	13	4.46	0.78	4.62	0.51	4.38	0.96	0.30	0.741	0.017	
6	13	4.85	0.38	4.85	0.55	4.92	0.28	0.15	0.864	0.008	
7	13	4.31	0.85	4.46	0.66	4.38	0.65	0.15	0.865	0.008	
8	13	4.31	0.75	4.15	1.34	4.31	0.95	0.09	0.910	0.005	
9	13	3.38	0.96	4.08	0.76	4.15	0.69	3.55 *	0.039	0.165	pre<post1†,pre<post2†
10	13	4.38	0.77	4.46	0.66	4.31	0.95	0.12	0.887	0.007	
11	13	4.15	0.80	4.38	0.65	4.31	0.85	0.30	0.743	0.016	
12	13	4.38	0.77	4.38	0.77	4.69	0.63	0.78	0.466	0.042	
13	13	4.31	0.85	4.38	1.12	4.46	1.13	0.07	0.932	0.004	
14	13	4.15	0.80	4.31	0.75	4.31	0.75	0.17	0.841	0.010	
15	13	4.23	0.83	4.69	0.63	4.38	0.87	1.17	0.323	0.061	

†p<.10 *p<.05 **p<.01 ***p<.001

$\eta^2 \geq 0.14$ 効果量大、 $\eta^2 \geq 0.06$ 効果量中 $\eta^2 \geq 0.01$ 効果量小

< 参加者振り返りシート(O)およびボランティア、担当者(◆)の見取りより >

【好奇心】

- 登山のときに「ここに〇〇(キノコや草花)があった！」など足元を観察して自然を感じられた。
- 石を探すときに「その石どこにあったの?」「この石あげる」とたずねあったりした。
- 魚が思った以上にヌルヌルしていた。
- 朝、ご来光を見たときは頂上とは違って富士山やきれいな雲海が見られて良かった。

【協調性】

- カヌーでは友達と「1, 2, 1, 2」と声をかけてカヌーを進ませることができた。
- 魚のつかみ取りで、魚が取れなかった時に「そっちにいるよ」とか声をかけてくれてうれしかった。
- 野外炊飯で火をつけるときに、みんなで考えながら火をつけることができた。
- 登山中、岩場などで「この岩動くから危ないよ」「ここ滑るよ」とみんなで声を掛け合って安全に登頂できた。
- ◆仙丈ヶ岳登山中に、限界の近かった班のメンバーに対してずっと「もうちょっと」「がんばれ」と声をかけ続けていた。

【自己主張】

- 野外炊飯で、班の中で火をつけたいと言って火をつけることができた。
- ◆仙丈ヶ岳山頂で写真を撮るときに、みんなの前で「写真を撮るときに掛け声をかけたい」と言え

た。

◆仙丈ヶ岳登山の最中、すれ違う人に元気にあいさつしていた。

◆最後の閉会式で感想を言う代表者を決める際に、率先して手を挙げる人が何人もいた。

【自己抑制】

○守屋山登山は疲れたけれど、集中して休む時は休み、登り、下りはだらけしないでメリハリをつけてできた。

○登山は疲れたけど、頑張っているみんなを見て、自分も頑張って頂上まで登ることができた。

◆目標であった「仙丈ヶ岳登山で疲れたと言わない」ということを実践していた。

【がんばる力】

○岩石の標本作りは難しかったけれど、最後まであきらめずにがんばった。

○魚がなかなか捕まえられなかったけれど粘り強くがんばった。

◆仙丈ヶ岳登山では、何度も自分を奮い立たせながら、最後まで弱音を吐かずに頑張っていた。

全体では、事前から事後、事前から追跡にかけて平均値は上がっているが、有意差はみられなかった。

5つの項目別でみると、全ての項目において事前から事後にかけて平均値が上がっているが有意差はみられなかった。「好奇心」においては、中程度の効果 ($\eta^2 \geq 0.06$) があることが確認できた。質問ごとにみると、「好奇心」の質問1「新しいことにワクワクして取り組むことができる」が事前から事後にかけて、事前から追跡にかけて増加し、5%水準で有意差がみられ、効果量も大きい ($\eta^2 \geq 0.14$) ことが確認でき、キャンプで向上したものが追跡時も継続していたと言える。キャンプ中に様々なことに興味をもち、体験したことで、普段の生活の中でも新しいことに取り組む気持ちが芽生えたものと考えられる。

「がんばる力」については、事後で上がったものの、追跡時は事前と同じ値に下がっていることがわかった。質問別にみると、「がんばる力」の質問15「一度始めたことは最後までやり通すことができる」では、有意差はみられないものの、中程度の効果 ($\eta^2 \geq 0.06$) があることがわかった。事後で向上したものが追跡時は下がってしまっており、キャンプ中はがんばれていたことが、普段の生活ではなかなかできていないことが考えられる。

また、「自己抑制」の質問9「夢中になっていることでも、時間がくれば、次のことに移ることができる」では、事前から事後、追跡と5%水準で有意差がみられ、効果量も大きい ($\eta^2 \geq 0.14$) ことがわかる。キャンプを通じて芽生えたものが、普段の生活の中でさらに成長したものと考えられる。

(2) 子供たちの活動意識の変容

活動意識の変容を測るため、1日の活動に対する意識を自己採点する形で、毎日寝る前の時間に調査を行い、事業全体の子供たちの活動に対する意識の変容を観察した。最終日はキャンプ全体を振り返って回答した。

- 選択肢：①すごくあてはまる
②わりとあてはまる
③あてはまる
④あまりあてはまらない
⑤全くあてはまらない

8月10日(水) 名前 []

		すごくあてはまる	わりとあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
1	自分から友達に考えや思いを伝えることができたと思う	①	②	③	④	⑤
2	グループの友だちの考えを聞き、理解したり、一緒に考えたりしたと思う	①	②	③	④	⑤
3	グループの目標達成のために積極的に活動することができたと思う	①	②	③	④	⑤
4	これまでの生活で自分が気づいたり、考えたりしたことを今日の活動で生かすことができたと思う	①	②	③	④	⑤
5	自分の立てた活動の目標に向かって活動することができたと思う	①	②	③	④	⑤

合計 7 点

○ 今日の自分はどうか?一日を振り返って感想を書きましょう

とてつらかったけど、最後まで登りきれて感動した。達成感があった。みんなにはげまされて登れたなって思った。

○ 仲間とかかわりの中でうれしかったことや印象に残ったことを書きましょう

登っているときの会話はもちろん、ばんご飯のときや昼ご飯のときはすごく笑いあえてうれしかった。

○ 明日の目標を書きましょう

最後まで気を抜かず、"あきらめず"に下りきる!

☆ スタッフから

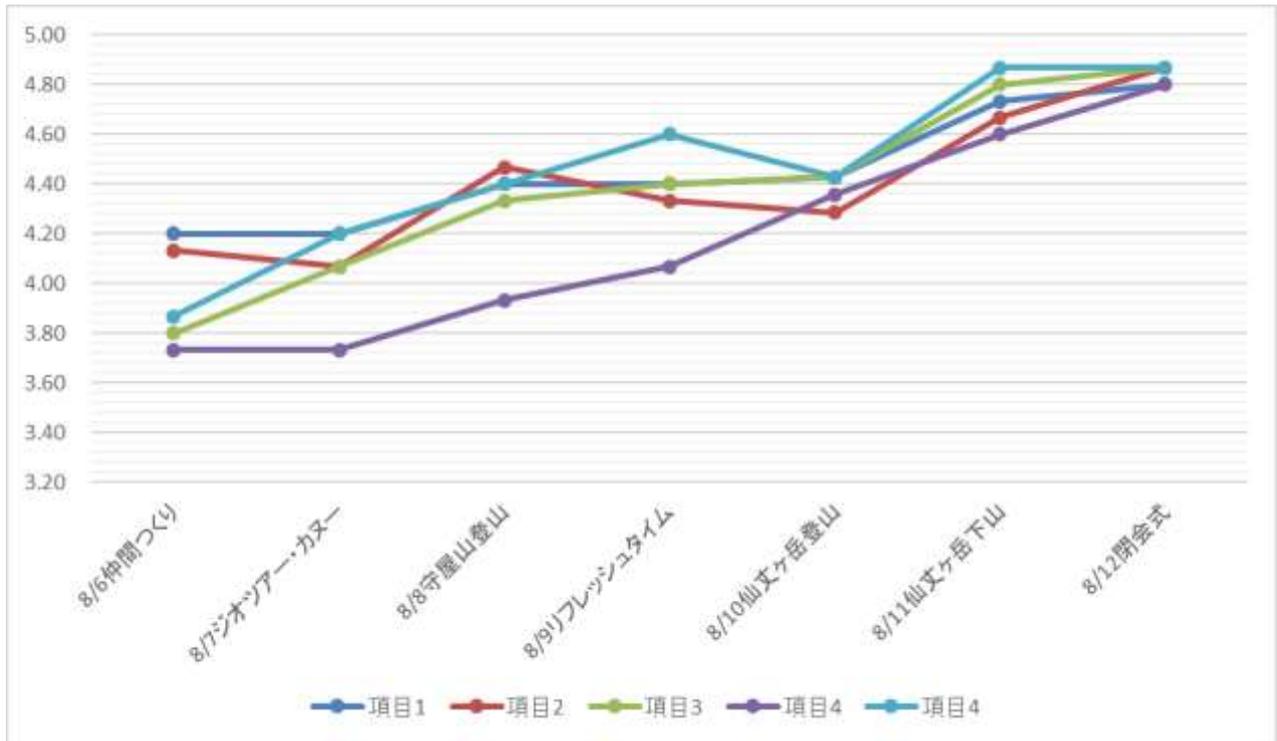
仙米ヶ岳 登頂おめでとう! 「みんなにはげまされた」というところに 3班の「お-あ」の気持ちを感じたよ! 明日は、お互いに思いやりを声かけとかかか"で"きると、もっとイイな"と、最後まで"気"を抜かず、1歩1歩確実に下山しよう! 明日も仲良く楽しくがんばろう!

トミさん

分析する際には、令和3年度のスケールと同様に「すごく当てはまる⇒⑤」、「わりとあてはまる⇒④」、「あてはまる⇒③」、「あまり当てはまらない⇒②」、「全くあてはまらない⇒①」へと変換して分析を行った。

< 子供たちの活動意識の変容の調査結果 >

系列	質問項目	選択肢の平均値						
		8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12
1	自分から友だちに考えや思いを伝えることができたと思う。	4.2	4.2	4.4	4.4	4.4	4.7	4.8
2	グループの友だちの考えを聞き、理解したり、一緒に考えたりしたと思う。	4.1	4.1	4.5	4.3	4.3	4.7	4.9
3	グループの目標達成のために、積極的に活動することができたと思う。	3.8	4.1	4.3	4.4	4.4	4.8	4.9
4	これまでの生活で自分が気づいたり、考えたりしたことを今日の活動で生かすことができたと思う。	3.7	3.7	3.9	4.1	4.4	4.6	4.8
5	自分の立てた活動の目標に向かって活動することができたと思う。	3.9	4.2	4.4	4.6	4.4	4.9	4.9



< 子供たちの活動意識の変容（全体平均） >

項目1は初日から最終日まで緩やかに上昇している。これは共に過ごす時間が長くなるにつれて、コミュニケーションが図られるようになったからであると考えられる。項目2について、8日の守屋山登山では高い値になったのは、適度な負荷の中で仲間と同じゴールを目指すことで、自然とコミュニケーションが生まれた結果だと考えられる。（「そんなに話せていなかった仲間といっぱい話せた」「登山中に班の人としゃべったり、笑いながらお昼を食べたりしてすごくおいしかった」）また、本格的な野外炊飯を実施したのもこの日であり、より班意識が向上したものと思われる。項目3と4は初日から最終日まで継続的に向上している。特に項目4については、顕著に値が向上している。これは毎日の振り返りとして、班の目標や今日の自分の気づきを振り返る時間を設けることで、それらについて意識した生活を送っていたことが考えられる。項目4について、10日の仙丈ヶ岳登山で大きく値が上昇しているのは、8日の守屋山登山で登山に対する課題を見つけ、9日の「登山に対する講義（講師：長野県山岳総合センター所長 傘木靖氏）」で改善点を考え、それが仙丈ヶ岳登山に活かされたからではないかと推察できる。

期間全体を通して各項目の平均値が上昇していることから、体験活動を重ねるごとに活動への意識が高まっていることが分かる。なかでも8日と11日の上昇度が高い。8日はキャンプ3日目であり、仲間づくりが比較的うまくできてきた中で、適度に負荷のかかる守屋山登山や初めての本格的な野外炊飯という明確な目標に向けて、仲間と協力することでグループ活動が充実したからだと考えられる。また、11日は仙丈ヶ岳の登頂に成功し、朝にはご来光を眺め、無事に下山したという達成感を得た参加者が多くいたものと推察できる。守屋山登山や仙丈ヶ岳登山のあとに値が大きく向上していることから、精神的、肉体的に負荷のかかる体験を乗り越えた際に大きく意識の変容が起こったと思われる。

7. 成果と課題

- 本キャンプの約1ヶ月前にあたる7月2日～3日に1泊2日で、ボランティアのためのスタッフトレーニングを実施した。それにより、ボランティアの不安が事前に解消されたり、それぞれの課題が明確になったりしたことで本番に向けてよりよい準備をすることができた。次年度は、もう少し強度を上げたプログラムで実施するとともに、ハードスキルを向上させる内容で計画したい。
- 「学びに向かう力」の調査結果から、今回のキャンプを通じて「好奇心」と「自己抑制」についての成長が見られた。
- 子供たちの活動意識の変容から、キャンプが進むにつれてすべての項目において値の平均値が上昇している傾向が見られ、各活動プログラムや毎日の振り返りによって子供たちの活動意識を向上させることができた。
- キャンプ期間中、自然の家担当者が常に全員で対応するのではなく、役割分担をしながら交代で休みの日を設定するなどして、担当者の負担を軽減しながらキャンプを運営することができた。一方で、ボランティアからは主担当がいらない日があるのは不安であったという意見があり、担当者ボランティアとの間で今回以上に入念に事前打合せを行うなど、双方にとって不安を解消できる取組みを検討する必要がある。また、合わせてボランティアに対しても担当者同様に役割分担をするなど、負担を軽減できるような方法を検討する必要がある。
- 新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、日程を1日短縮したことで、スケジュールが少しタイトになった。守屋山登山から仙丈ヶ岳登山までの期間が短く、疲れが十分に抜けないまま仙丈ヶ岳に向かうことになった参加者もいた。一方で、専門家からは「登山プログラムの間が中1日で行われるのはそれほど無理なスケジュールではない」との意見をいただいた。上記を踏まえ、引き続き日程の検討していきたい。
- 日程変更に伴い仙丈ヶ岳登山の予活動時間を短縮したが、登山の予定時間に対して大幅に遅れた。仙丈ヶ岳登山は参加者の疲労度を考慮し、当初の予定通り前泊をして登山開始時間を早めるなど余裕を持った計画を立てる必要がある。
- 足の痛みからメインプログラムである仙丈ヶ岳登山を断念した参加者がいた。キャンプ全体を通じて、虫刺されや擦り傷、切り傷など軽微な傷、熱中症、頭痛、ひざの痛みなどを訴える参加者がいた。予算の関係もあるが、期間中に看護師等の医療従事者を依頼することも前向きに検討する必要がある。

8. さいごに

本事業は、長期の自然体験活動を通じて、子供たちの「学びに向かう力・人間性等」を育むことを目的としています。近年の新型コロナウイルス感染症の影響を受け、子供たちの体験活動が制限されており、本事業もその影響を少なからず受けて日程を短縮せざるを得ませんでした。そのような状況の中でも、何ができるか、どのようにして実施するのか検討し、事業を開催できたことを嬉しく思います。

参加した子供達にとって、かけがえのない7日間になったことと思います。

仲間と励まし合い、互いに認め合いながら困難を乗り越えた体験が子供たち一人ひとりを成長させ、今後の人生の中で生かされていくことと信じています。

本事業を企画・運営するにあたり、ご指導・ご助言いただきました企画委員の皆様に心から感謝申し上げます。

また、本事業は今後も継続して取り組んで参りますのでご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

〒396-0301 長野県伊那市高遠町藤沢 6877-11

TEL : 0265-96-2525 FAX : 0265-96-2151

HP : <https://takato.niye.go.jp/> e-mail : takato-kikaku@niye.go.jp



体験の風を
おこそう